

令和元年度 事業常任委員会視察報告会 要点記録

日 時：令和元年 12 月 10 日(火)

場 所：第 1 委員会室

出席者：委員長 南加代子

副委員長 殿本マリ子

委員 京西且哲 岸田厚 岩崎雅秋 烏野隆生 宇野慎悟 稲田悦司

視察先：境港水産事務所

日 時：令和元年 10 月 24 日(木) 14:00～16:00

調査事項：水産業について

【報告会での各委員の発言要旨】

☆境港港は水産庁の定める衛生管理基準に対応した先進的な市場である。

この市場は衛星管理対応型施設であり、安心安全な食を運ぶ過程が見える化になり、消費率も向上し、全国に向けても効率的な PR になっている。水揚げ量に関しては、松葉ガニ・黒マグロ等で日本一を誇っている。この漁港は自然気象や地形的にも自然恩恵を受け高い漁獲高を繋げている。

本市に於いても大阪・泉州広域水産業として品質・鮮度維持徹底の為、漁船全般にマイナスイオンを用い殺菌精製する装置を導入し保持したことで魚価が上がり漁業所得が向上している。又、地域活性化の為、漁港でのイベントも開催され賑わいをもたらしている。

しかし、境港や本市に於いても次世代漁業を担う人材の定着と育成が課題となっている。

☆境港の漁港には平成 30 年 11 月に沿岸漁協から陸送される水産物を扱う陸送上屋が完成し、衛生的で消費者にとって安心・安全な食を運ぶことを見せています。又、施設の前に漁船が美しく停泊している姿は観光的にも素晴らしいものが有ります。境港は黒マグロ・松葉ガニ等の高級魚などを漁獲できることから、これほどの漁港を運営できるのでしょう。本市に於いてもマルシェなどができ、様々なイベントで活気づいてきました。高級魚などの水揚げは難しいですが、水産業の発展を考えると、一つの方法として魚を使つての加工食品や健康食品の研究事業を考えてはと思います。

☆境港水産物地方卸売市場は鳥取県が設置し、指定管理者制度(指定管理期間は令和元年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日)により境港水産物市場管理(株)が運営しています。卸売人は 3 社、仲買人は 71 社です。卸売人は複数の沿岸漁協が「さかいみなと」の強化・活性化に向けて合併した団体です。

境港や岸和田港の課題は同じであり、本市はその取り組みについて先行している境港の

事業を参考にすべきです。

- 1.後継者の確保：漁船のリース、給料補助(1年間 15万円/月)
脱サラやIターンの研修参加もある。
- 2.漁獲量の安定に向けた養殖：ギンザケ、マサバ
- 3.水産物のブランド化：生マグロ、カニ
- 4.収益の拡大：港や直売所でのイベント等による集客、
冷凍魚の海外輸出（県外の商社が事業化）

鳥取県が高度衛生管理型市場として設置していることから本市とは格差があるが、参考にすべきところも沢山あります。

☆鳥取県営境港水産卸売市場の概要について説明を受ける。

本市の漁港と漁獲される魚種や水揚げ量等と規模が違い比較することが出来ない。

しかし、高度衛生管理型市場の整備は本市でも導入すべきではないか。

境港市が小学校の見学ツアーや保育所・幼稚園での食育活動に取り組んでいる事業を本市でも取り組むことが出来るのではないか。

後継者問題では鳥取県と境港市で船の購入補助金2分の1、月の固定給15万円で実習制度が有り、本市と大阪府が一緒になり今後この様な型を導入していけるのではないか。

☆大阪一の漁獲量を有する本市にとって、境港の水産物地方卸売市場の高度衛生管理は安心・安全な食を運ぶよう様々な工夫をしていることが非常に参考になりました。

又、「市場見学ツアー」「水産まつり」「幼稚園・保育所での食育活動」等の水産団体・行政・市民が一体となつての取組みが素晴らしいです。

☆鳥取県境港水産事務所にて施設整備の説明と本場内を見学させて頂きました。

境漁港は日本海と秀峰大山の豊かな自然に囲まれ、松葉ガニ・黒マグロなど多種多様な水産物が水揚げされる国内有数の漁港であります。

本場内の見学に於いて、高度衛生管理型市場として消費者の安心・安全な食を運ぶ取り組みがなされていることを感じさせられました。

本市の岸和田漁港は大阪府下での有数の水揚げを誇り、又、マルシェなどで賑わいづくりも構築されています。岸和田市としても近隣他市の市場との連携や新たに地方卸売市場として公設者となり、運営を行うことも考えるべきではないかと思います。

☆漁業では後継者問題が大きな課題の一つであるが、境港には実習生制度が有り、県と市が補助を行い漁港が斡旋している。

本市の漁港は阪神高速の近くにあり都市部へのアクセスもしやすいので、このような制度が後継者問題解決の一助となると考える。

境港の付近には水木ロードという観光地が有り、漁協とも連携して観光に繋げている。岸和田にも様々な観光スポットがあるので漁港と地域の賑わいづくりに繋げることができるのではないか。

☆まず初めに 2023 年完成予定の新しい漁港について説明を受けました。

水産庁の定める衛生管理基準のレベル 3 に対応し、工事総額 185 億円の内、国庫補助金が 3 分の 2 と高い補助率となっている。境港港は地形的にも自然の恩恵を受け、多種多様な水産物が水揚げされ、国内有数の大規模漁港の一つである。又、高度衛生管理対応型施設であり、水産物・人・車両動線に配慮し、安心・安全な食を届けている。

鳥取県営境港水産物地方卸売市場は昭和 37 年 9 月 15 日に鳥取県が開設し、平成 30 年 2 月末現在で鳥取県境港水産事務所、境港水産物市場管理(株)が管理し、卸売人 3 社、仲買人 71 社である。全国上位の水揚げ基地として、カニ・マグロの水揚げが日本一であり、水揚げ金額は 4 年連続 200 億円を超えている。

取組みとしてはギンサケ養殖を事業化し、加工場も整備し、地元雇用も増加した。又、ギンサケは「境港サーモン」としてブランド化し販売している。そして、マサバ養殖も行い、洋上自動給餌システムの実証実験を開始している。

海外への輸出はサバ・イワシ・ブリ類等の冷凍魚を中心に伸びている。輸出先は東南アジアや中国・韓国などの近隣諸国が多い。英語版の HP の作成や香港・クアラルンプールでの海外物産展の開催を実施している。

又、さかいみなと三大水産まつり、市場見学ツアー、幼稚園・保育所での食育活動などの事業を積極的に取り組み、活性化に努めている。

鳥取県は若手漁師育成に固定給として月額 15 万円(1 年間)の補助事業も行っている。

本市では規模が違うが、近年、国庫補助金を受け、施設を整備し、街の賑わいづくりも構築されている。しかし、本市としての人的・財源的な協力体制・サポートが消極的過ぎるのが残念である。関連施設等の積極的な推進により、観光・賑わいづくりを行い、本市の魅力ある「まちづくり」に繋げたいものである。